

実践のまとめ（第3学年 英語科学習指導案）

令和3年9月22日第6校時
指導者 県立佐渡中等教育学校
教諭 石川 卓也

1 研究テーマ

スピーキングテストと関連した話す力（やり取り）の育成

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

平成29年に改訂された現行の学習指導要領では、話すこと[やり取り]の目標イで、「日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする」とされている。スピーチのようなこれまでの話す[発表]活動に加え、即興で気持ちや事柄を伝えるような活動を設定したり、これらを評価していくような取組が必要となってきたりしている。自分のこれまでの授業では、帯活動やALTとの授業の中で、積極的に話すことを取り入れてきた。活動をして、メモをとったり、まとめの英文を書いたりする中で、ある程度の理解は深まっているが、活動や発表をして終わりということにとどまっている場面もあり、表現力を高めていくためには、これまで以上の工夫が必要であると感じている。

そこで、普段の練習の成果を試す場として、学期末にスピーキングテストを実施し、目標をもって練習に臨み、練習の成果が結果となってあらわれるようにしたいと考えた。具体的なゴールを設定し、どのようにしたらよりよい評価につながるかを考えることで、表現を磨いていく機会としたいと考える。またその中で、会話のモデルを示したり、自分の発話を振り返ったりする場面を積極的につくることで、生徒が表現を増やし、会話を継続していくことができると考えた。

(2) 研究テーマに迫るために

①スピーキングテストと関連付けた練習場面の設定

普段授業を行っている中でも、生徒にとっては即興的に英語で話をするのは難易度が高く、取り組みにくいものだと感じている。そこで、ALTにインタビューをして会話を続けることを1学期のスピーキングテストとし、テストに向けて練習をする場面を設定する。練習したことがテストにつながる、という意識をもたせることで、練習に積極的に取り組む姿を期待する。

②会話のモデルの提示

ただ「英語で話してみよう」といっても具体的に何を話したらよいか分からない、ということがやりとりをする上での大きなハードルになると考える。そこで、会話の手本を示し、その言葉の働きを説明することで、生徒が会話の続け方を理解し、自信をもって話すことができると考える。具体的には「質問→答え→一言加える→質問を返す」のパターンを会話モデルとしながら、会話を続けていけるように指導したい。

③授業での話す場面の工夫

スピーキングテストだけでなく、普段の授業でも即興的に話す場面をつくり、話すことへの抵抗感を減らしていく。具体的には帯活動で様々な種類の活動を行ったり、教科書を

読み終わった後にretellingの活動を取り入れたりしていく。

④会話の可視化による振り返り

話した内容を可視化して、自分の表現を振り返ったり、他者の表現から学び合ったりする場面を作る。タブレット端末のメモや録音の機能を使うことで自分やパートナーが話した内容を文字で見ることができ、気づきにつながっていくと考えた。

(3) 研究テーマにかかわる評価

- ①ALTと1分間会話を続けられる生徒が80%以上いる。(スピーキングテスト)
- ②粘り強く会話を続けたり、表現を増やしたりするために取り組んだことを具体的に記述している。(振り返り用紙)

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Project① 有名人にインタビューしよう (BLUE SKY 3 啓林館)

(2) 単元の目標

- ・学んだ表現を使って、インタビューすることができる。
- ・インタビューした内容をもとに、まとまった量の英文を書くことができる。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・インタビューにおいて質問したり、相手からの質問に答えたりする表現を理解している。 ・インタビューの内容をまとめてALTを紹介する英文の書き方を理解している。	・ALTのことを理解したり自分のことを伝えたりするために、これまでに学んだ表現を用いて考えを伝えている。 ・インタビューの内容を整理し、学んだ表現を使って英文でまとめている。	・ALTのことを理解したり自分のことを伝えたりするために会話を継続しようとしている。 ・インタビューの内容を整理し、他の人に伝わるように英文でまとめようとしている。

(4) 単元と児童(生徒)

①単元について

本単元は、Unit 3までに学習した表現を使って、有名人にインタビューをするという内容である。教科書の内容では、ペアで有名人になりきってインタビューをし、その内容をレポートにまとめるというものである。今回はその内容を発展させ、ALTにインタビューをして会話を続ける形のスピーキングテストを実施する。スピーキングテストの形にすることによって、ALTに質問をするだけでなく、質問されたことに答えながら会話を続ける必要が出てくるため、やりとりの練習をする良い機会になると考えた。練習の中では、ペアワークを入れて、インタビューしたことをメモし、会話を分析する機会をつくる。この中で、自分たちの発話を分析しながら、よりよい表現を目指していけるようにしたい。

②生徒の実態(3年1組 30名 男子15名 女子15名)

英語学習に対し、前向きに取り組む生徒が多い。ペアワークやグループワークにも積極的に取り組むことができる。ただ、学力差が大きく、英語学習に苦手意識をもってい

る生徒や、理解に時間がかかる生徒も少なからずいる。年度当初からペアワークを毎時間のように行ってきており、話した内容の一部を板書し、振り返る中で表現を増やしてきた。よりたくさんの表現を使えるようになって、自分の言いたいことを伝えたり、質問したりしながら会話を長く続けられるような姿を期待する。

(5) 単元の指導計画と評価計画（全4時間、本時2／4時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	・教科書本文を読み、モデル文の内容を理解する。 ・インタビューの質問の仕方と答え方を確認する。	◎単元の目標や活動内容を確認する。 ◎インタビュー記事を読み、教科書にある設問に答える。 ◎どのような内容を、どのような形で質問しているかを確認する。	知・技 教科書の内容を理解している。 【ワークシート記述分析】
2 (2)	・スピーキングテストに向けた練習 (本時) ・スピーキングテスト	◎ペアになり、インタビューをしながら会話を継続する。 ◎ペアの会話をメモしたものをもとに、よりよい表現を考える。 ◎ALTとのスピーキングテスト	態度 会話を継続しようと、練習に積極的に取り組んでいる。 【振り返りワークシート】 思・判・表 事実を述べたり、質問をしたりしながらALTと1分間会話を継続している。【動画分析】
3 (1)	・インタビューのまとめ	◎ALTにインタビューして聞いた内容を、英文でレポートにまとめる。	思・判・表 質問した内容がすべて伝わるように記述している。 【レポート記述分析】

4 本時の展開

(1) ねらい

- ・これまでに学んだ表現を用いて、相手のことを理解したり自分のことを伝えたりすることができる。(知識・理解、思考・判断・表現)
- ・会話を継続しようと、練習に積極的に取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)

(2) 展開の構想

本時では、前時で確認した教科書の表現を使いながら、次時のスピーキングテスト向けの練習をしていく。同じようなパターンで何回か練習を繰り返すことで、質問の仕方や会話のつなげ方に慣れ、表現が定着していくことを期待している。また、会話の内容をタブレットのメモ機能を使って可視化することで、自分が使った表現を振り返り、よりよい表現の仕方を工夫していきたい。

(3) 展開 (48分授業)

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
10	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・ウォームアップ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアになり、教師が見せる絵についてもう片方の生徒に英語で説明しあう。 ○どんな説明をしたのかを質問し、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇間違いをおそれず、明るい雰囲気で行えるように声をかける。 ○タブレットのメモ機能を使い、表現を振り返れるようにする。
33	<p data-bbox="272 707 1406 786" style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">キャサリン先生とのスピーキングテストの練習をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の確認 ・会話モデルの確認 ・会話練習 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習したインタビューに使える質問を復習する。 ・プリントを用いて会話のモデルを提示し、それぞれの言葉の役割を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">①質問→②答え→③一言加える →④質問を返す</div> の形を会話モデルとし、この形で会話をつなげていくことを確認する。 ①ペアで役割を決め、1分間インタビューをする。会話モデルに沿って、会話をつなげていく。 ②タブレットを使って、会話の内容をメモし、会話の後でそれを見ながら振り返りをする。 ①、②を何人かと繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> □積極的にコミュニケーションをとろうとしているか(主体的) ○適宜生徒の会話を拾いながら、よりよい表現や会話の発展の仕方について、理解を深められるようにする。
5	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに本時の振り返りを書く。 ・まとめと次時の連絡 	<ul style="list-style-type: none"> ◇次時のテストで使いたい表現をまとめさせる。 □本時で学んだことをまとめ、次時に活かそうとしている(主体的)

(4) 評価

- ・会話を継続しようと、練習に積極的に取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

生徒の取組の様子については、全体的に意欲的に取り組むことができている様子であり、どのペアも途中であきらめたりせず、会話を継続しようとする姿勢が**見**られた。初めにウォームアップとして絵を使ったクイズを行うことで、話しやすい雰囲気がつくられ、活動にスムーズに入ることができたと考えられる。また、「質問→答え→一言加える→質問を返す」のパターンを会話モデルとして提示したことは、活動を継続するためには大変有効であると感じた。生徒は次に何をすればよいのかを考える必要がなく、具体的にどんな表現を使えばよいかを考え、それを相手に伝えるほうに集中することができている様子であった。

1回ごとの練習が終わった後、タブレットのボイスメモ機能を使い、自分の発話を聞いて表現を振り返っていた。振り返り用紙を見ると、「次はHave you ...?の表現を使ってみる」

「会話が途切れたらDo you ...?などの簡単な表現を使って質問してみる」「話題を変えたいときはBy the way,...を使う」など、表現に関わるものが多く書かれていた。振り返りの時間を使って、タブレットで表現を調べている姿も見られ、実際にテストで使えるような表現を増やせた様子だった。

(2) 研究テーマについて

A L Tと1分間会話を続けられたかについては、①「多少途切れることがあっても自然に1分間会話を継続することができた」、②「途中で間があいたが、不自然にならない程度に会話を継続した」③「会話が途切れることが数回あり、コミュニケーションが成り立っていない」の3つの評価基準を設けた。①、②の評価を受けた生徒が、88%であり、ほとんどの生徒が1分間会話を継続することができた。スピーキングテストという目標を設定し、それに向けて集中的に練習に取り組んでいくことは一定の成果を得られたと感じている。(図1)は①、②、③の3つの評価項目をグラフに示したものである。

また、振り返り用紙の記述では、「がんばって取り組んだ」や「難しかったけど質問をしようとした(または聞き取ろうとした)」などの記述が多くみられたが、やや具体性に欠けるものが多かった。

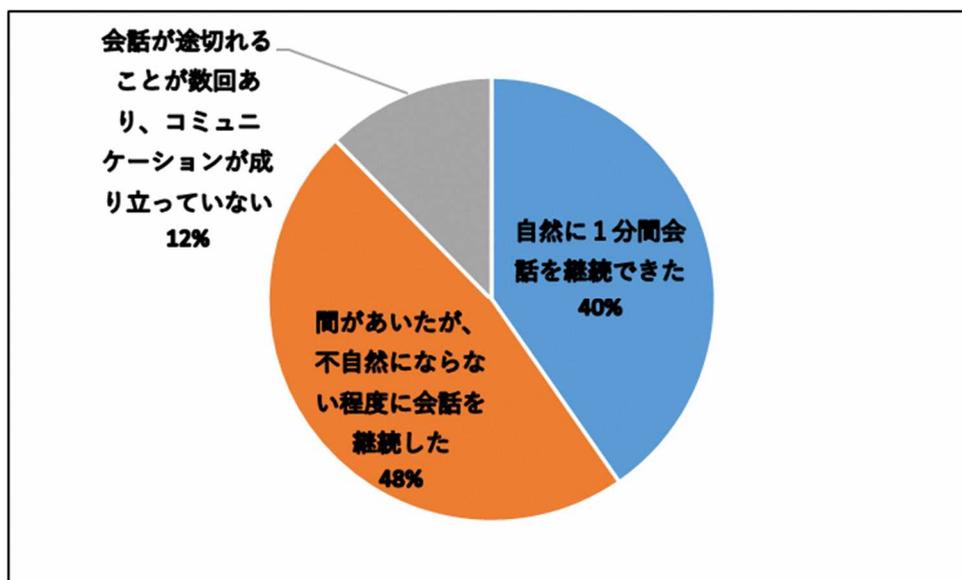


図 1

(3) 今後の課題

- ・振り返り用紙を工夫して身に付けさせたい力を具体的にする

振り返り用紙に「がんばった」などの具体的でない記述が多かったのは、どのように振り返りをしたらよいかかわからなかったためだと考えられる。そこで、次回からは振り返りの視点を設けたり、チェック項目を用意したりして、そこから選ぶ形で振り返りを行うなど、振り返り用紙を工夫していきたい。こうすることで短い時間の中でもしっかりと自分の取り組みを振り返り、またどのような点を意識して次回から取り組んでいけばよいかを理解することができると考えられる。

(表1)は上記の課題をもとに、後日、別の単元で行ったスピーチテスト用に作成した振り返り用紙の一部である。振り返りをチェック項目にしたことで、スピーチの完成に向けて意識する点を明確にした。このような形で振り返り用紙を活用し、身に付けたい力を意識しながら学習に臨んでいくことができると考える。

3 振り返り 次の①～⑧について、あてはまるほうに○をつけましょう。

自己調整力	
① 自ら学習の目標を持って取り組んだ。	できた できなかった
② 単語や表現を辞書で調べたり、先生に聞いたりしながら表現を増やした。	できた できなかった
③ もっと良いスピーチになるように、表現を工夫しながら英文を完成させた。	できた できなかった
④ みんなにうまく伝わるように読み方を練習したり、工夫して発表することができた。	できた できなかった
⑤ 今回のスピーチを通して、次からの学習につながるヒントをつかむことができた。	できた できなかった
粘り強さ	
⑥ スピーチ文を完成させるために、粘り強く取り組んだ。	できた できなかった
⑦ 分からない表現があってもあきらめず、調べたり、聞いたりして英文を完成させた。	できた できなかった
⑧ スピーチ文を暗記しようと粘り強く練習し、発表した。	できた できなかった

表 1

- ・単元を通じた練習など、スピーキングの指導をより継続的にする

今回の実践ではスピーキングテストと関連付けた話す力（やりとり）の育成を目指したが、ある程度の成果を残すことができた。この取組を今後は単元や学期を通してなど、長い期間で実践していきたい。「課題と評価基準の提示→課題の達成に迫るための方法の提示→練習→実践と評価→振り返り」のサイクルを繰り返し行うことによって、生徒は表現に習熟したり、主体的に学習に取り組む姿勢が身に付き、深い学びにつながっていくと考える。学んだことを実際に使い、英語を使って自分の気持ちを伝えたり、他者の考えを知ったりする喜びを感じさせながら、英語を学ぶ楽しさを実感できる授業をこれからも計画していきたい。